



《学校教育目標》

心豊かに 自分らしく生き抜く 子どもの育成

<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/kids/shougaku/houtoku/index.htm>

＜今年度のスローガン＞

学校HP 二次元コード

全校で協力し

思い出に残る今年だけの運動会

10月26日（土）、暑さが和らいだ天候のなか、令和6年度の運動会が無事に開催されました。今年のご家族の皆様だけではなく地域の方々にも応援いただくことができました。

1・2年生の表現では、カラフルな軍手で一人ひとりが自分なりのポーズをきめ、リズムに合わせて踊る姿がとてもかわいかったです。3・4年生の表現では、「ライラック」の曲のイメージカラーのキラキラポンポンをもち、難しい隊形移動にも挑戦しとてもきれいでした。最後の表現は5・6年生。自分たちで考えた動きが随所に盛り込まれ、旗を振り下ろす音もびったりそろい迫力がありました。どの学年の子どもたちも、みんな「一生懸命」。その姿に4月からの成長も感じる事ができ胸が熱くなりました。

保護者や地域の皆様、子どもたちへのあたたかな声援、本当にありがとうございました。



…………ご協力ありがとうございました！…………

運動会当日は、駐輪場の案内や整備のために PTA 役員の方々、また、テントや杭、机椅子の片付けなど、力仕事に親父会と多くの保護者の皆様のご協力をいただきました。また、いつも力を貸してくださる親父会のメンバーが増えたことは、とてもうれしいニュースでした。朝の登校を見守ってくださった地域の方もいらっしゃいました。運動会の「縁の下での力持ち」として子どもたちを支えていただいたこと、心より感謝いたします。子どもたちの健やかな成長には、学校の力だけではなく、保護者や地域の皆様のご理解やご協力が不可欠です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

実りの秋がやってきました

10月15日（火）に4年生が桜井稲作組合、かながわ西湘農業協同組合、小田原市生涯学習課の皆様のご協力のもと、尊徳学習の一環として捨て苗田の稲刈りをしました。6月にここで田植えをして10月に稲刈りをするというこの取組は、昭和62年からずっと続いている報徳小の伝統的な行事です。これまでの約5か月の間の稲の成長は、今年も、桜井地区連合自治会長の宮内さんが定点撮影をして、子どもたちのために写真を毎回送ってくださいました。



子どもたちは鎌の安全な使い方を教えていただき、豊かに実った稲束に鎌を入れ、サクッと手前に引き寄せて稲を刈っていきました。始めは少し戸惑っていた子もいましたが、回を重ねるごとにどんどん上手になり、あっという間に稲を刈り取ることができました。



報徳ランドの田んぼでも、10月7日（月）に稲作ボランティアの井上さんのご指導、畑ボランティアの方々のご協力のもと、4年生による稲刈りが行われました。台風の被害もなく無事刈り取ることができこれから脱穀が行われます。

今年も多くの方々に見守られ、力を借りながら金次郎さんの教えの「勤労」「積小為大」の実体験をすることができました。これらの経験がこれから進んでいく4年生の尊徳学習にどのように生かされていくのかとても楽しみです。



編集後記：「秋の日はつるべ落とし」と言われ、この時期は日暮れからあっという間に真っ暗になります。グラウンドで遊んでいる子どもたちには、暗くなる前に帰宅するよう声をかけますが、習い事などのためか暗い中でも自転車に乗り、移動している子も少なくありません。

子どもたちには日頃から、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを伝えています。子どもの「危険察知能力」を高めるためには、まず、「自分はかけがえのない大切な存在」であることを感じる事が重要といわれています。自分を大切にしているからこそ、周りの危険な状況にいち早く気付くことができるというわけです。

学校、家庭、地域の大人たちが、それぞれの立場で、目の前にいる子どもたちに「あなたはかけがえのない大切な存在」ということを、どのように伝えていけばよいのか…改めて考えたいものです。